

採材検討会（広葉樹）の概要

津軽森林管理署

昨年度実施した、広葉樹加工工場に搬入された丸太での採材検討会と、同工場での加工工程の視察を踏まえ、今年度は、山元での採材技術向上により、生産資材が無駄なく有効に活用され有利販売につなげることを目的として、下記のとおり採材検討会を実施しました。

参加者を2班に分けて、採材の検討、採材結果の発表、青森県森林組合連合会より講評を受ける という流れで実施しました。

採材を検討する対象木は 8本。6本を3本ずつ2組に分け、時間を決めて各班で採材の検討を行いました。残り2本は、太く枝分かれが多いこと、二股で曲がりが多い などのことから、青森県森林組合連合会に採材をお願いしました。

記

1. 日 時 令和元年10月23日(水) 10時～11時30分
2. 場 所 弘前市 湯口山国有林 3 4 6 林班 ほ小班
3. 参集者 国有林：13人
民有林関係：27人 合計 40人
(県民局 5人、林業事業体 18人、森林組合 2人、森組連合会 2人)

4. 概要

(1) 署長あいさつ

昨年実施された検討会を踏まえ、一般材の比率が更に上がるよう、より実践的でポイントをおさえた採材が行えるよう、この検討会で技術の向上に努めて頂きたい。

(2) 青森県森林組合連合会から

秋から年末に向かい広葉樹の価格が上がってくる。より高い価格で販売できるよう採材技術の向上に努めて欲しい。

みなさんが検討して表示した材について、後ほど採材のポイントについてお話しをさせて頂く。



(1) 署長あいさつ



(2) 青森県森林組合連合会より

(3) グループによる採材の様子

1班



2班



検討結果 発表

1班



2班



検討した対象木ごとに、どこで何mで切るか、どのような理由（節、曲がり）で切るかなどを説明しながら、各班交互に発表していきます。

講評（青森県森林組合連合会から）



対象木ごとに、元から先端に向かって順番に ここまでは何mで切る、ここからは何mで切る、理由は〇〇（節、曲がり、腐れ）などといった解説をしていきます。

節は樹幹に沿ってしっかり切断する。36cm以上のものは、可能な限り長めの採材を行う。などの説明を受けました。

下は、対象木 ⑤と⑧ についての解説です。

腐れや節の関係で長めの採材は出来ませんでした。

⑤



⑧



まとめ

材を必要としている人のニーズにもよるので、これが正解 というのが なかなか難しいところ、欠点を外しながら、一般材の比率が多くなるような採材に心がけるとのまとめとなりました。